

# 第1回大竹市立地適正化計画専門部会

## 議 事 録

### 1. 開催概要

- ・日時 : 令和3年8月4日(水) 10:00～12:00
- ・会場 : 大竹市役所 4階第2会議室
- ・出席者 :

伊藤 雅	広島工業大学 工学部環境土木工学科教授
満井 敦子	大竹市社会福祉協議会
谷岡 茂	大竹市商工会議所
岡本 政幸	大竹市自治会連合会
杉田 宗	広島工業大学 環境学部建築デザイン学科准教授
廣中 伸孝	広島県土木建築局 都市計画課長(オンライン参加)
山本 茂広(事務局)	大竹市建設部 建設部長
西田 耕一郎(事務局)	大竹市建設部 建設管理監
山田 浩史(事務局)	大竹市都市計画課 都市計画課長
長久 智幸(事務局)	大竹市都市計画課 副参事兼計画整備係長
平原 裕介(事務局)	大竹市都市計画課 副主任
岡部 慎悟(事務局)	大竹市都市計画課 副主任



## 2. 議事内容

### ○開会あいさつ

### ○大竹市立地適正化計画専門部会の位置づけ

〈大竹市立地適正化計画専門部会の位置づけについて、資料「大竹市立地適正化計画専門部会について」を用いて説明〉

### ○自己紹介

〈委員及びアドバイザー、事務局による自己紹介〉

### ○部会長並びに議長選任

〈伊藤委員が部会長及び議長に選任された〉

## 議題

### 1. 立地適正化計画の概要

(議長)

- ・ それでは、議題 1 「立地適正化計画の概要」について、事務局からの説明を求める。

(事務局 都市計画課長)

- ・ ※立地適正化計画の概要について、資料 1 を用いて説明。

(議長)

- ・ ただいまの事務局説明に対して、ご意見・ご質問はないか。

(委員)

- ・ 12 頁について、この図で示されている色付きの用途地域が定められている市街化区域で考えていくという認識でよいか。

(事務局)

- ・ そうである。

(委員)

- ・ 居住誘導区域の設定にあたり、市街化区域内で、災害のリスクがある、または、低密でコンパクトではないというところは誘導区域から外れるという認識になる。将来的には、市街化区域から市街化調整区域になる、いわゆる逆線引きもあり得るか。

(事務局)

- ・ 災害リスクを回避するためにそういうことはあり得ると思う。居住誘導区域の設定は、緩やかに行っていくことを考えている。コンパクトなまちを目指していく。

(議長)

- ・ 他に意見がなければ、次の議題に進めさせていただく。



## 2. 現況・課題とまちづくりの方向性・骨格構造について

(議長)

- ・ 続いて、議題 2「現況・課題とまちづくりの方向性・骨格構造」について、事務局からの説明を求める。

(事務局 都市計画課長)

- ・ ※現況・課題とまちづくりの方向性・骨格構造について、資料 2 を用いて説明。

(議長)

- ・ ただいまの事務局説明に対して、ご意見・ご質問はないか。

(委員)

- ・ 立地適正化計画は、何年か前の計画に従って進めているという認識でよいか。実体験として、公共交通の利用者が減っていると認識している。小方地区の新駅は昔の計画では建設予定であったが、昨今の状況の変化を踏まえ、新駅設置の方針転換についても提言するのか。

(事務局)

- ・ 本計画では、新駅の構想の見直しは考えていない。基本構想をもっているのです、それを活かしつつ、立地適正化計画を作成していく。

(委員)

- ・ 24 頁について、2040 年には人口が 22,000 人になる予測とあるが、22,000 人を下回っていくと思っている。大竹市が魅力あるまちだとよいが、現在の状況からは、あまり住んでもらえないのではないかとと思っている。お子さんも減ってきている。大竹小学校も 1 学年 100 人を切る状況である。一方で高齢者は増えてくることになる。
- ・ 公共交通では、こいこいバスが走っている。小島地区（栄周辺）では、コミュニティバスが走っていたが、3 年～4 年前に乗合バスから乗合タクシーに変わった。乗合タクシーが走っている地区は、5 地区ある。玖波地区 2 路線、御園地区、あとは湯舟で走っているが、大竹小学校の山間部には、乗合タクシーが走っていない。その地区からほしいとの意見があるが、意見を取りまとめて市に申請する人がいない状況である。乗合タクシーは、乗合バスに比べ低料金であり、料金を市が負担している。広い目で公共交通をみていかないといけないのではないかと考えている。

(事務局)

- ・ 社人研が出しているデータによると、2040 年で約 19,000 人になると予想されているが、大竹市都市計画マスタープランでは 2039 年で約 22,000 人と想定している。市としては人口減少に対する施策を行い、人口減少を食い止めたいと考えている。

(委員)

- ・ 高齢化が進んでいて長寿となっている。大竹市の大企業は、大学等に通っている優秀な人を雇用するので、大竹市からの入社がすくない状況であり、大竹市からの就職は県外にいつてしまう。大竹市には、県外からの通勤が多い。そのため、22,000



人を下回る方向になるのではないかと考えている。お知恵をいただいて増やす方向を模索していければと思う。

(委員)

- ・ 人口減は全国的な動向なので仕方がないが、例えばかつて大竹市の人口が 2 万人だったのはいつ頃になるか。ずいぶん前になるのではないか。当時は人口が増えていく途中だったが、現在は減ってきているため状況が違う。人口規模が減る中での施策や目標値の考え方は抜本的に変えていく必要があると考えている。

(委員)

- ・ 防災の点について、大竹市では、集中豪雨等の浸水被害もあるが、瀬戸内海からの津波の心配もある。小瀬川の氾濫もあるが、これらをくみ取っていくと、住むところがなくなり、単なる土地計画の考えでは難しい取組になる。

(事務局)

- ・ 24 時間 428mm というほとんど発生しないような状況を想定して試算している。これを考慮するとほとんど、住めるところがない。その点については、防災指針を設けて、しっかり対応していくことになる。防災指針についてはまたの機会にご紹介していきたい。

(委員)

- ・ 大竹市の沿岸部で浸水していない区域があるが、これはなにか。

(委員)

- ・ 埋め立てであり、標高が高いところになるため、浸水しない。

(委員)

- ・ 大竹市では、津波、高潮のハザードマップをつくっていると思う。また、地震の時の液状化も考えられるので、沿岸部の埋め立て地の状況も考慮してほしい。

(委員)

- ・ 沿岸部は、埋め立てなので、液状化の心配もある。かといって全ての災害を考慮すると、住めるところがなくなるので、根本的に対応が難しい。津波や洪水などの用途に応じた避難場所についても検討してほしい。防災のハード、ソフトの対策を示してほしい。

(委員)

- ・ レーダーチャートを見ていると、平均より好成績の箇所が多いが、自動車分担率が大きく平均を下回っている。公共交通施策の検討にもかかわるが、なぜこれほど自動車分担率が高いのかを整理しないと、そもそも公共交通を導入しても意味がない可能性もある。一方、市街地が平坦であることもあり、自転車分担率が高いことから、自転車の活用推進による車利用からの転換も考えられる。「公共交通」に加えて「自転車」の活用を考えることで、クルマを使わない方法を考えるのが良いのでは



ないか。

(委員)

- ・ 公共交通が利用されていない理由としては、便が少ないことがある。病院や大型商業店舗には移動できるので、買い物や医療には使われている。ただ、通勤では利用が少ない。鉄道との乗継がうまくいっていないため、駅に行くにはむずかしい。通勤ではほとんど利用されていない。

(委員)

- ・ 空き家について、大竹地区で空き家が多いというデータになっている。駅に近く市街地でいい場所であるが、古くからの市街地で空き家が多いところをどうするか。どうやってコンパクトシティにしていくかが重要な考えになり、改善方法をしっかり考えてほしい。
- ・ 人口減少について、現状のままでは、居住が少なくなる。働く人の雇用の確保も重要な視点である。大竹市で働いている人の数が本日の資料にでてなかったなので、整理してほしい。産業センサスがあるので、大竹市外から来て働いている人、大竹市内在住で働いている人の推移を整理してほしい。

(委員)

- ・ 10 頁の車の依存度について、保育園に送るための車利用もある。お子さんが2～3人いる家族もあると思う。本来は、そのまま住み続けてほしいところであるが、高校は市外にいき、そのまま市外の就職になる場合が多い。引き戻すための施策が必要であると思う。大竹市に勤めたいと思ってもらえる施策がないか。雇用の創出は重要な点である。

### 3. 今後のスケジュールについて

(議長)

- ・ 続いて、議題3「今後のスケジュール」について、事務局からの説明を求める。

(事務局 都市計画課長)

- ・ ※今後のスケジュールについて、資料3を用いて説明。

(議長)

- ・ ただいまの事務局説明に対して、ご意見・ご質問はないか。
- ・ 意見がないようなので、今日の指摘を踏まえ、さらに検討していくということで良いか。

(一同)

- ・ 了解した。

(議長)

- ・ 広島県都市計画課よりご意見はあるか。



(広島県土木建築局 都市計画課長)

- ・ わかりやすい資料、丁寧な説明、活発なご意見ありがとうございます。
- ・ 確認として、資料 2 の 17 頁について、別の立地適正化計画の概要では、「土砂災害特別警戒区域」は居住誘導から外すことを原則としていた。広島県では、7 月末の都市計画審議会において、今後、20 年で、土砂災害特別警戒区域に入っている市街化区域を市街化調整区域に変更することが挙げられている。広島県内で 10,000 箇所あり、令和 6 年度には、市街化区域の縁辺部を中心に市街化調整区域に逆線引きしていくことが挙げられている。また、小瀬川は国が管理しており、浸水想定区域が指定されている。大竹市では、浸水想定区域に最も人が多く住んでおり、浸水しないようにするのは不可能である。そのため、防災指針で浸水リスクを低減、早期避難を基本として検討してほしい。早期避難については、避難場所、避難ルートについて検討してほしい。
- ・ 要望として、多くの関係者の意見を参考にして作成してほしい。計画策定後の取組主体は、市民が行うことも多くある。多くの関係者に関与してもらい、できることであれば、市民の皆様に随時、情報公開し、そして意見を頂くようにしてほしい。

(議長)

- ・ その他意見がなければ本日の議事は以上となる。これより先の進行は事務局にお返しする。

○閉会あいさつ

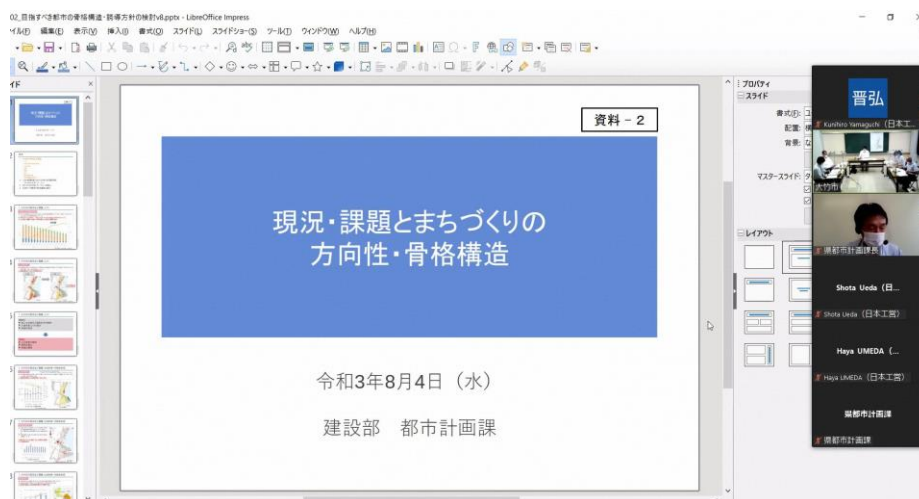
### 3. 会議風景



写真：WEB 会議の様子（広島県庁からオンライン参加）



## 第1回大竹市立地適正化計画専門部会議事録



写真：WEB会議の説明の様子

以 上